



Title	豊平川と私たち
Author(s)	持田, 誠
Description	総合博物館へ行こう. 第11回.
Citation	きぼうの虹, 333, 7-7
Issue Date	2011-04-01
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/46748">https://hdl.handle.net/2115/46748</a>
Type	article
File Information	mochida kibou333.pdf



これは北海道大学の校歌「永遠の幸(とこしえのさち)」である。北大では寮歌のひとつ「都ぞ弥生」があまりにも知名度が高く、公式行事の際にも「都ぞ弥生」が歌われる場合が多いため、どうも影の薄い校歌ではある。しかし、

永遠の幸 朽ちざる誉れ  
つねに我等がうへにあれ  
よるひる育て あげくれ教へ  
人となしし我庭に  
イザイザイザうちつれて  
進むは今ぞ  
豊平の川 尽きせぬ流れ  
友たれ永く友たれ



写真2 豊平川流域の土地利用の変遷。写真ではよくわからないが、地形の立体模型に時代ごとの土地利用が投影されていき、おもしろい。

作詞者は白樺派の文豪、有島武郎。歌詞には豊平川の流れが謳われ、札幌に根付く農学校の憧憬が胸に響く良い歌だと思ふ。

# 総合博物館へ 第11回 行こう

## 豊平川と私たち

総合博物館  
資料部研究員

持田 誠



写真1 切り出した札幌軟石の標本。約4万年前の火山灰が起源。今でも市内の石造り建築物に用いられている。

### 企画展

## 「豊平川と私たち」

北海道大学総合博物館では、3月8日から5月29日まで、企画展「豊平川と私たち」その生いたちと自然 を開催する。5月10日の「地質の日」を記念して、道立地質研究所や日本地質学会北海道支部、札幌の地域博物館として日頃から豊平川をテーマに掲げている「札幌市博物館活動センター」との共催事業でもある。

定山溪の山奥を源流とする豊平川は、「札幌軟石」の台地を削り、豊かな栄養を含んだ土壌を扇状地へ吐き出しながら、江別市との境界域で石狩川へ合流。そのまます狩湾へ注ぐ。全長約72.5kmの石狩川水系の一級河川だ。

札幌の市街地は、豊平川によって形成されたこの扇状地の上にある。源流は札幌市民の水道を支える水かめであると共に、発電にも重要。北大のみならず、札幌という街自身が、まさに豊平川の「尽きせぬ流れ」によって支えられてきたのである。

今回の企画展では、豊平川の地質・地形・水理・生物とともに、札幌と周辺の自然の成り立ち、扇状地と人々の暮らしとの関わりについて紹介する(写真2)。



写真3 水草の押し葉標本など豊平川の生物群が標本で展示される

### 扇状地の自然と

## 札幌軟石

明治6年に描かれた札幌の市街図をみると、山々の麓に広がる森と豊平川の河畔林との間が切り拓かれ、街が形成されてきたことがよくわかる。鬱蒼と茂る扇状地の森林景観の名残は、今も中央区北3条西8丁目に広がる北大植物園の構内で垣間見ることができ。

開発の進んだ今でも、豊平川とその流域では、さまざまな生物を目にすることが出来る。企画展では、豊平川に住む魚類と、流域に残る旧河道や河跡湖などに生育する水草の標本が展示される(写真3)。

札幌の建築用材として重要な札幌軟石(写真1)は、約四万年前

に支笏湖を生み出す大噴火を起した火山の噴出物(火山灰)が起源。これが堆積してできた「凝灰岩(ぎょうかいがん)」である。切り出すには軟らかく、建築物には適度な硬度を持っており、保温性に優れていることから、明治時代から札幌市内外で広く用いられた。企画展では、札幌軟石の他にも、豊平川流域で見られるさまざまな岩石が展示されている(写真4)。

企画展関連事業として、5月21日には「札幌軟石ウォッチングツアー」も開催される(定員40名、先着順)。詳しくは総合博物館ホームページを参照。



写真4 札幌軟石以外にも豊平川で見られる各種岩石を展示